

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「自分とくらべて読み、とうじょうじんぶつに手紙を書こう」 教材名「お手紙（アーノルド・ローベル）」

2 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読し、言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。（〔知識及び技能〕(1)ク・(1)ア）
- (2) 「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。（C(1)イ・エ）
- (3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（第1学年及び第2学年の目標(3)）

物語の行動と自分の体験を結び付けて感想をもち、人物への手紙に表す（C(1)オ）。身近なことを表す語句を増やし、手紙の中で使う（〔知識及び技能〕(1)オ）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。（(1)ク） ②言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（(1)ア） ③人物への思いを伝える身近な語句を増やし、手紙の中で使っている。（(1)オ）	①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。（C(1)イ） ②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（C(1)エ） ③「読むこと」において、人物の行動と自分の体験を結び付けて感想をもっている。（C(1)オ）	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして、役割を決めて音読しようとしている。（粘り強さの「進んで」、学習の調整の「今までの学習を生かして」、重点とするC(1)エ、言語活動のC(2)イを含めた、国立教育政策研究所の参考資料の形）

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、がまくん・かえるくん・かたつむりくんが登場する物語である。場面を出来事で呼ぶと、がまくんが一人で手紙を待つ場面、かえるくんが手紙を書いて届けを頼む場面、二人で待つ場面、手紙が届く場面になる。「待つ」場面が前半と後半に2度あり、同じ行動でも様子が違うので、比べると行動の意味が見えてくる。学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を働かせるのに向いている。似た言い方が場面をまたいで出てくるので、同じ言葉を探す活動が〔知識及び技能〕(1)アの言葉の働きへの気付きにつながる。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、低学年の読むことは「内容の大体を捉える」「行動を具体的に想像する」までで、主題をまとめることは求めない。気持ちを直接聞く前に、必ず行動と様子の言葉を先に見つけさせる。根拠の言葉を言えたことをほめ、気持ちの言葉の当たり外れは評価しない。表は第2次を通して同じ形を使い、2つの待つ場面を横に並べられる配置にする。音読は(1)クとして、想像したことを声(大きさ、速さ、間)で表す手段と、評価の場面の両方に使う。かぎの中は人物の声、外は語りの声で読み分ける約束を、全員での音読で毎回確かめる。

5 指導と評価の計画(全12時間)

次	時	学習活動	評価規準(評価方法)
第1次	1	○教師の読み聞かせを聞き、面白かった所を言い合う。 ○全文を音読し、登場人物を確かめる。	知①(音読の観察)
	2	○場面が変わる所(時・場所・人物が変わる所)に印を付け、場面ごとに「誰が何をした」を一文で言う。	思①(場面ごとの一文)
第2次	3	○がまくんが一人で手紙を待つ場面を読み、行動と様子の言葉に線を引いて表に書く。 ○「この人物はどんな気持ちか。どの言葉からそう思うか」を話し合い、気持ちに合わせて台詞の読み方を工夫する。	思②(表・発言)
	4	○かえるくんが手紙を書いて届けを頼む場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。	思②(表・発言)
	5 (本時)	○二人で手紙を待つ場面を読み、前半の待つ場面と比べて、様子と行動を表す言葉から二人の気持ちを想像する。 ○想像した気持ちに合わせて、台詞の読み方を工夫する。	思②(表・発言) 知②(振り返りカード)
	6	○手紙が届く場面を読み、行動と様子の言葉を表に書いて、気持ちを話し合う。 ○場面をまたいで出てくる似た言い方を探す。	知②(発言)
第3次	7~8	○行動から想像した様子を音読で確かめる。 ○印象に残った人物の行動と自分の体験の共通点や違いを話し、人物に伝えたい感想を選ぶ。	思③(体験と行動の比較メモ)
	9~12	○登場人物に、自分の体験と結び付けて感じたことを手紙に書く。 ○読み合い、どの行動からどんな感想をもったかが伝わるように直す。 ○人物への手紙を交流し、読みを振り返る。	知③・思③(人物への手紙) 態①(見直しの記録)

6 本時の指導 (5/12)

(1) 本時の目標

前半の待つ場面と比べながら、様子と行動を表す言葉を見つけ、そのときの気持ちを言葉を根拠にして想像できる。(C(1)エ、(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの場面の表を見て、前半の「がまくんが一人で手紙を待つ場面」の行動と様子、想像した気持ちを言い直す。 2 本時の問いをつかむ。 ○「今日はもう一度待つ場面です。同じ『待つ』ですが、前と同じ気持ちでしょうか」 【めあて】同じ「待つ」場面で、気持ちは前と同じかを考えよう。 3 本時の場面を全員で音読する。	・前時までの表を黒板の中央に貼り、左側（後半の待つ場面）は空けておく。 ・かぎの中は人物の声、外は語りの声で読み分ける約束を、全員での音読で確かめる。
展開 (分)	4 誰が、何をして待っているかを一人で探し、行動の言葉に線を引く。 ○「誰が、何をして待っていますか」 5 どんなふうに待っているか（様子）の言葉に、別の色で線を引く。 ○「どんなふうに待っていますか」 6 前半の待つ場面の表と並べて、同じ所と違う所を隣の人と話す。 7 全体で発表し、黒板の表の左側（後半の待つ場面）に書き込む。 8 気持ちと根拠の言葉を話し合い、線でつなぐ。 ○「二人はどんな気持ちで待っていますか。どの言葉からそう思いましたか」 9 想像した気持ちに合わせて、場面の台詞を隣の人と交代で音読する。 〈予想される児童の反応〉 ・うれしい。 ・たのしい。 ・前の場面と同じで、かなしい。 ・気持ちは言えるが、どの言葉からかを言えない。	・気持ちを聞く前に、必ず行動と様子の言葉を先に見つけさせる。 ・気持ちを言った子には「どの言葉からそう思った？」と聞いて文章に戻す。 ・気持ちを表す言葉だけで止まる子には「何を知っているから、うれしいの？」と聞き、人物が知っていることを整理する。 ・前半と同じと答えた子には、2つの場面の様子の言葉を読み比べさせる。 ・根拠の言葉を言えたことをほめ、気持ちの言葉の当たり外れは評価しない。 ・叙述と台詞は、先生が教科書から選んで書き入れる。 ・ICTがあれば本文を映して、線を引く所を全員で見る。根拠を全員で確かめやすくなる。 ◎思② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (表・発言)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	10 表を見て、前半と後半の待つ場面の違いを隣の人に一文で言う。 11 学習をまとめる。 【まとめ】同じ行動でも、様子の言葉が違っていると気持ちが違う。 12 振り返りカードに、今日見つけた言葉を1つと、その言葉から想像した気持ちを書く。	・音読で工夫した所を、板書の左端に残す。 ・振り返りカードは短く書かせる。 ◎知② 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。（振り返りカード）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端：題名、作者名、めあて（同じ「待つ」場面。気持ちは同じか）。
中央：前半と後半の待つ場面を並べた表（右に前半、左に後半）。それぞれ上から「誰が」「したこと（行動）」「どんなふうに（様子）」「想像した気持ち」「そう思った言葉」を書く。左の後半を本時で埋める。気持ちと根拠の言葉は線でつなぐ。
左端：今日のまとめ（同じ行動でも、様子の言葉が違っていると気持ちが違う）と、音読で工夫した所。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重